

第 1 回 大阪府河川周辺地域の環境保全等審議会  
 議事要旨

開催日時	平成 25 年 2 月 27 日 (水) 10:00~12:15
開催場所	安威川ダム建設事務所 5 階会議室
出席者	池委員、久留飛委員、栃本委員、長田委員、道奥委員、養父委員 計 6 名 (欠席：原田委員、山崎委員)
概要	<p>要：【以下、○委員 ●事務局】</p> <p>大阪府知事より、大阪府河川周辺地域の環境保全等審議会会長へ「安威川ダムの自然環境保全対策等について」により、安威川ダムの環境改善容量の有効活用方法と工事等の環境保全対策についての意見を求める諮問が行われた。</p> <p>(1) 会長選任について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全会一致で養父委員が会長に、養父会長の指名により道奥委員が会長代理として選任。</li> </ul> <p>(2) 大阪府河川周辺地域の環境保全等審議会の運営について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪府河川周辺地域の環境保全等審議会運営要綱について了承を得た。</li> </ul> <p>(3) 安威川ダムの自然環境保全対策について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第 14 回安威川ダム自然環境保全対策検討委員会の議事概要について了承を得た。</li> <li>・資料 4 についての委員の主な発言は以下のとおり</li> </ul> <p>【第 2 章】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○放流水の平均値が 1.4℃上昇することについては、あくまで平均値であるので生物にどのような影響があるかは一概には言えない。</li> <li>○ダムからの放流では、4~6 月に冷水放流となり農作物の発育に影響を与えることがある。水温変化の年間での最大値・最小値、平均値だけでなく、この期間についての放流状況がわかるデータ等を示してほしい。</li> <li>●データの整理を行い次回以降にお示しする。</li> <li>○オオサンショウウオについては、冬季の温水放流時に活動せず、放流終了後に活動し始めるという事例がある。</li> <li>○藻類については、増殖時期には生産活動が活発化し、どれくらい続くかによって少しの温度上昇でも問題となる可能性がある。また富栄養化の恐れもある。</li> </ul> <p>【第 3 章】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○フラッシュ放流により藻類が流れる仕組みには、付着藻類そのものが流れる場合と、藻類が付着した土砂ごと流れる場合があるが、糸状藻類がアーマーコート化した河床に付着した場合、フラッシュ放流で除去することは難しい。</li> <li>○カワシオグサ等の糸状藻類は一度付くと非常に取れにくい。これらが発生する条件を把握し、これらが発生しない放流計画を立案する必要がある。</li> <li>○生物相への影響を少なくするには、できる限り現在の瀬・淵を維持することが重要。</li> </ul>

- フラッシュ放流量について、安全面から最大 30 m<sup>3</sup>/s という案であるが、それ以上での実績があるなら、もっと流すべきではないか。雨の時に増量放流できないのか。
- 人為的に流す最大量を 30 m<sup>3</sup>/s としている。頻度は減るが、降雨により実際にはそれ以上の流量も流れる。安全面を考慮すると、降雨時の放流はできない。
- 最大放流量は、環境の視点からはなるべく多くすべきであるが、法的の視点からは安全に流せる流量に限界がある。検討にあたっては後者が優先されるべきと考える。
- フラッシュ放流により、高水敷が冠水する区間はどれくらいあるか。
- 名神高速道路付近の約 1.5km 区間。
- この区間の河川改修や、河床掘削して対応するなど、工夫の余地があるのではないか。
- 現在の安威川の整備目標においては、河川改修事業は概成しており、計画断面での堆積土砂撤去しかできないのが現状。
- フラッシュ放流の最大量の決定にあたっては、現在の安威川で実際に 30 m<sup>3</sup>/s の流量があった際に、どのような状況かを把握しておく必要がある。
- 実績データに基づき、状況を整理する。
- フラッシュ放流の結果、状況が悪化したときの対応はどうなるのか。それらに対応できるような予算の確保もできるのか。判断にあたって、今後の具体的な対応も示してほしい。
- ダム維持管理に必要な予算については確保できるよう努める。
- モニタリングを今後続けていくということだが、具体的な計画はあるのか。
- 最大放流量が決まれば、放流計画を引き続いて検討し、今後必要な対応についての課題整理を行う。次回以降の審議会において、事務局の案を示し、審議いただく。

#### 【第4章】

- フラッシュ放流水取水時に流動層厚が大きくなり（約 10m）、深層の貧酸素水までも取り込むことが懸念される。資料で示す水温以外の要素も含め、フラッシュ放流により悪化することも想定して検討してほしい。

#### ・ 答申について

- 安威川ダムの環境改善容量の活用方法について、フラッシュ放流に関する検討内容は、安威川の現状把握をして示していただき、維持管理の計画も十分に検討することを意見として付け加え、本日答申を行う。

#### ・ 次回審議会について

- 工事等における環境保全対策について審議いただく予定。